

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通ネットワーク計画に基づく事業)

平成26年3月17日

協議会名:河内長野市地域公共交通会議

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況(対前年度比)	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
南海バス株式会社	日野・滝畑コミュニティバス	初めての事業評価のため、前回事業評価なし。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A 【運行回数】 (目標)現状維持→(実績)現状維持 【輸送人員】 (目標)減少幅の抑制もしくは増加:100%→(実績)105.7%で達成	実施した公共交通利用の利用促進につながる取り組み(見やすいホームページの構成、Facebookの情報掲載)については、内容の充実を図るとともに、「第2期河内長野市地域公共交通総合連携計画」及び「地域協働推進事業」等に基づく、バスマップや観光チラシの作成・配布、地域でのワークショップの実施、日野・滝畑コミュニティバスの運行ルートの見直しなど様々な公共交通の利用促進につながる取り組みを実施していく。
南海バス株式会社	路線バス小深線2(石見川系統)	初めての事業評価のため、前回事業評価なし。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A 【運行回数】 (目標)現状維持→(実績)現状維持 【輸送人員】 (目標)減少幅の抑制もしくは増加:92%→(実績)94.9%で達成	
南海バス株式会社	路線バス高向線1(高向起終点系統)	初めての事業評価のため、前回事業評価なし。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	B 【運行回数】 (目標)現状維持→(実績)現状維持 【輸送人員】 (目標)減少幅の抑制もしくは増加:101%→(実績)68%で未達成	
南海バス株式会社	路線バス天野山線5(旭ヶ丘系統)	初めての事業評価のため、前回事業評価なし。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 【運行回数】 (目標)現状維持→(実績)現状維持 【輸送人員】 (目標)減少幅の抑制もしくは増加:99%→(実績)86.7%で未達成	
南海バス株式会社	路線バス天野山線4(天野山起終点系統)	初めての事業評価のため、前回事業評価なし。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 【運行回数】 (目標)現状維持→(実績)現状維持 【輸送人員】 (目標)減少幅の抑制もしくは増加:104%→(実績)79.9%で未達成	
南海バス株式会社	路線バス天野山線3(サイクルセンター系統)	初めての事業評価のため、前回事業評価なし。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A 【運行回数】 (目標)現状維持→(実績)現状維持 【輸送人員】 (目標)減少幅の抑制もしくは増加:82%→(実績)128.5%で達成	

## 事業実施と生活交通ネットワーク計画との関連について

平成26年3月17日

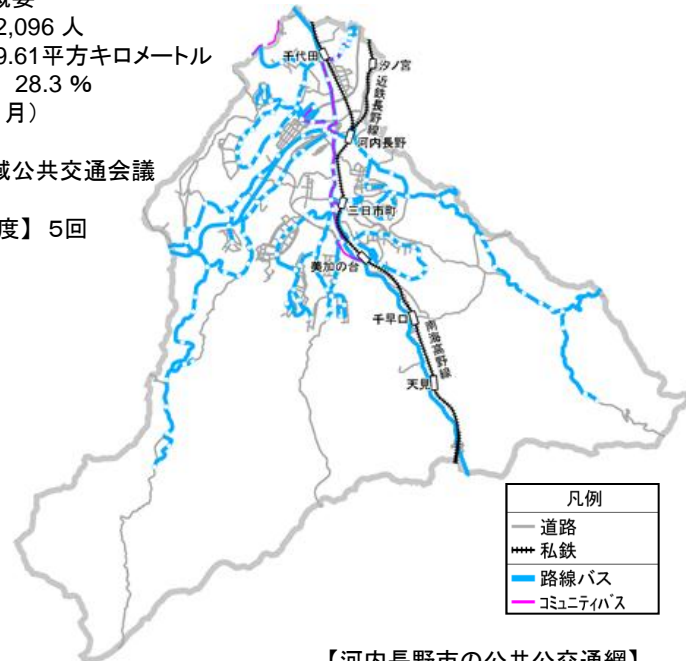
協議会名:	河内長野市地域公共交通会議
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>公共交通は市民生活を支える大切な交通手段であるが、人口減少や少子高齢化、自動車への過度の依存などの要因により、路線バスやコミュニティバス等の公共交通利用者が年々減少を続けており、持続可能な公共交通を確保することが極めて厳しい状況にある。</p> <p>そのため、住民、交通事業者、行政などの関係者による協働の取り組みを進め、市内を運行する路線バスやコミュニティバス等の公共交通の維持・発展を図ることを目的とする。</p>

### 目的 計画 目標 (P)

- 事業の目的  
公共交通の利用促進につながる取り組みを進め、市内を運行する路線バスやコミュニティバス等の公共交通の維持・発展を図る。
- 事業内容
  - ・バスマップの作成、配布
  - ・地域でのワークショップの実施
  - ・市の公式HPの充実やSNSを活用した情報発信
- 定量的な目標(各路線における対前年度比)
  - ・運行回数の維持
  - ・輸送人員の減少幅の抑制もしくは増加

### 概要図・参考資料

- ・河内長野市の概要
  - 【人口】 112,096 人
  - 【面積】 109.61平方キロメートル
  - 【高齢化率】 28.3 %  
(平成26年1月)
- ・河内長野市地域公共交通会議  
開催状況  
【平成25年度】 5回



### 具体的取り組み (D)

- 公共交通利用促進の取り組みを実施(平成25年8月～9月)
  - ・市ホームページの内容をスマートフォンからも見やすいページ構成に変更した。
  - ・SNSを活用した取り組みとして、市Facebookにコミュニティバスの時刻表、運賃表などの情報を掲載した。
- ※事業者(南海バス)の取り組み
  - ・毎月1回実施している、従業員による駅前ターミナル立会において、時刻表・企画券チラシの配布を実施し、利用促進PRを行った。(8月19日、9月24日に河内長野駅前にて実施。)
  - ・ホームページ内で、河内長野市域を対象とした企画券(モックルカード・ワイドモックルカード)の案内PRを実施した。

### 取り組みに対する評価 (C)

- 目標達成状況(平成25年8月～9月)
  - ・運行回数:対象の6系統全てで運行回数の維持ができ、目標を達成した。
  - ・輸送人員:対象6系統のうち、1系統は減少幅が抑制、2系統は増加したことにより、計3系統において目標を達成したが、残り3系統については、減少したことにより、目標を達成できなかった。
- ※その理由として、2ヶ月間という短い期間のため、実施した公共交通の利用促進につながる取り組みの効果が十分に出ていなかったと考える。

### 自己評価から得られた課題、対応 (A)

- 今後の対応
  - ・実施した公共交通の利用促進につながる取り組み(見やすいホームページの構成、Facebookの情報掲載)については、さらなる内容の充実を図る。
  - ・「第2期河内長野市地域公共交通総合連携計画」及び「地域協働推進事業」等に基づく、バスマップの作成・配布、観光チラシの作成・配布、地域でのワークショップの実施、日野・滝畑コミュニティバスの運行ルートの見直しなど様々な公共交通の利用促進につながる取り組みを実施する。

### アピールポイント、特に工夫した点など

- コミュニティバスのルート、時刻表、運賃などの情報を、全て同じページにまとめることで、スマートフォンからも見やすいページを作成した。
- Facebookを活用することにより、公共交通の利用が少ない若年層の利用促進を図った。